

県市の関連上位計画

1) 愛知県の上位関連計画

① あいちビジョン2020(平成26年3月)

ア) めざすべき愛知の姿

リニアを生かし、世界の中で存在感を発揮する中京大都市圏
～5千万人リニア大交流圏の西の拠点として、人、モノ、カネ、情報を呼び込む大都市圏

日本の成長をリードする産業の革新・創造拠点
～企業や人材が集まり、革新的な技術の創出や成長産業への展開が進む最強の産業県

安心安全で、誰もが夢と希望を抱き、活躍する社会
～人が輝き、女性や高齢者、障害のある人など、すべての人が活躍する愛知

イ) 基本目標

日本一の元気を暮らしの豊かさに

ウ) 主な政策

① 中京大都市圏～5千万人リニア大交流圏の西の拠点となる大都市圏に向けて

- ◇リニア開業効果を高める交通ネットワークの整備
- ◇国際交流基盤等の整備・機能強化
- ◇名古屋都心部等への高次都市機能集積
⇒名古屋港周辺の大規模集客施設の整備
- ◇自立する大都市圏に向けた取組と中京都構想の推進

② グローバル展開～世界から活力を取り込める地域に向けて

- ◇県内企業の海外展開支援
- ◇グローバル市場の獲得と海外からの投資促進
- ◇海外とのパートナーシップの構築
- ◇グローバル人材の育成
- ◇海外からの人材獲得
- ◇多文化共生の推進

③産業革新・創造～日本の成長をリードする最強の産業県に向けて

◇付加価値の高いモノづくりの推進

※「知の拠点あいち」での産学行政連携による研究開発の推進

◇自動車産業の高度化・航空宇宙産業の振興

◇健康長寿、環境・新エネルギーなど課題解決型産業の育成

◇立地環境の整備

◇多様な産業の創出・育成

※インキュベーション施設の運営や専門家による経営支援などベンチャーの創出・育成

◇中小企業・小規模企業者の振興

◇産業人材の育成

④農林水産業 ～ 競争力ある農林水産業に向けて

⑤文化・スポーツ・魅力発信～世界から人を惹きつける魅力ある大都市圏に向けて

◇現代芸術の創造発信拠点としての地位確立

◇全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の育成・招致

◇地域魅力の磨き上げ・観光客の誘致

◇MICE の戦略的な誘致・開催

◇東京オリンピックの開催やリニアの開業を見据えた観光振興等の検討

⑥教育・人づくり～前向きに挑戦し、キャリアアップできる人づくりに向けて

◇前向きに挑戦できる人づくり

◇若者の課題解決能力や社会的自立ができる力の育成

◇円滑な就業・労働移動への対応

◇困難を抱える人へのきめ細やかな支援

⑦女性の活躍 ～ 女性が元気に働き続けられる社会に向けて

⑧子ども・子育て応援～少子化の流れを変える社会に向けて

- ◇安心・安全な妊娠・出産支援
- ◇すべての子ども・子育て家庭への支援

⑨健康長寿～「人生90年時代」を健康に生きられる社会に向けて

- ◇生涯を通じた健康づくり
- ◇シニア世代の社会参加支援
- ◇地域医療の確保
- ◇支援が必要となっても安心して暮らせる地域づくり

⑩障害者支援 ～ 身近な地域で共に暮らせる新しい社会に向けて

⑪防災・防犯 ～ 災害や犯罪に負けない、強靱な県土・安全なまちづくりに向けて

- ◇災害から県民の生命・財産を守る強靱な県土づくり
 - ⇒南海トラフの巨大地震等による揺れ・津波への対策
 - ⇒風水害対策：市街地の下水道整備や、市街化の進展により低下した流域の保水・遊水機能の向上などの取組を進める
 - ⇒広域で大規模な災害に備えた体制強化と迅速な復旧・復興
- ◇安全・円滑に移動できる道路交通環境の実現と交通事故の減少
- ◇犯罪がなく安心して暮らせる地域社会の実現

⑫環境・持続可能まちづくり～100年持続可能な次世代のまちづくりに向けて

- ◇持続可能なエネルギー社会の構築
- ◇「環境首都あいち」の実現に向けた取組の推進
- ◇持続可能な集約型のまちづくり
- ◇社会資本の計画的・効率的な維持管理・更新、運用

エ) 尾張地域の取組方向

●目指すべき将来像

尾張地域には、首都圏から中京圏に及ぶリニア大交流圏の西の拠点となる「中京大都市圏」の中核として、高い求心力と世界的な交流拠点を持つとともに、リニア開業の効果を圏域全体に波及させていくことが求められる。

世界につながる玄関口としての機能を高めつつ、大都市の多様な魅力や次世代産業の育成、利便性の高い居住環境の形成を通じ、世界に開かれた、人・モノ・情報が活発に行き交う大都市地域をめざす。

リニア開業のインパクトを受け止め、世界に開かれた、人・モノ・情報が活発に行き交う大都市地域

●地域づくりの方向性と主な政策

- ◇世界とつながる玄関口としての機能強化
- ◇大都市名古屋をはじめ、各都市の魅力を生かした地域の賑わいの創出
- ◇次世代産業の育成・強化と地域産業の活性化
- ◇大都市地域としての利便性を生かした、質の高い快適な暮らしを支える基盤づくり
- ◇災害に強く安心・安全に暮らせる地域づくり

② 愛知県人口ビジョン まち・ひと・しごと創出総合戦略(平成27年10月)

ア) 基本的な考え方

- ・東京一極集中にストップをかけ、日本の活力を取り戻す核となる地域をめざす
- ・#愛知の発展を担うのは「人」であり、誰もが愛知を舞台に活躍できる
- ・「人が輝く愛知」を実現

イ) 重視すべき視点

- | | |
|------|-------------------------|
| 視点 1 | 産業を強くし、働く場をつくる |
| 視点 2 | 地域の魅力を磨き上げ、発信する |
| 視点 3 | 結婚・出産・子育ての希望をかなえる |
| 視点 4 | 活力ある地域をつくり、バランスある発展をめざす |

ウ) 基本目標と施策

基本目標①しごとづくり

- ・日本の「産業首都」としての中枢性をさらに高め、質の高い「しごと」を創出する。

基本目標②魅力づくり

- ・“Heart of Japan”をキャッチワードに、本県の魅力を国内外に発信し、多くの人が訪れ、滞在してもらえる地域を作る

基本目標③人の流れづくり

- ・若年者を中心とした東京圏への人口流出の流れに歯止めをかけ、国内外から愛知に人を呼び込む流れを作る。

基本目標④結婚・出産・子育て環境づくり

- ・結婚の意思を持つ若者の希望をかなえ、夫婦が希望する時期に安心して出産、子育てができる環境をつくる。

基本目標⑤暮らしの安心を支える環境づくり

- ・年齢や男女、障害の有無や国籍に関わらず、誰尾が社会の担い手として活躍できる社会をつくる。

基本目標⑥活力ある地域づくり

- ・各地域が活力を維持し、県内のバランスのある発展を実現する。

③ 名古屋都市計画区域マスタープラン(平成23年9月)

ア) 基本理念

優しさと逞しさ、ともに備えた都市をめざして

—人間・自然・産業が調和し多元的に発展する愛知の都市—

イ) 都市づくりの基本方向

●多様な価値観や多文化を受容するコミュニティを育む都市

本県においても長期的には人口減少が見込まれ、健全な暮らしを維持していくためには、多様な価値観や多文化を受容するコミュニティ（地域社会）の形成が一層重要になることから、それを支える都市をめざします。

●都市機能が適切に分担・連携された都市

今後の成熟社会や人口減少・超高齢化社会の到来を見据えると、生活の質や防災の観点、環境負荷の低減や自然環境の保全の観点、都市運営にかかる費用の観点が重要であることから、都市機能の適切な役割分担と連携を進め、社会的費用の負担や環境負荷の小さい都市をめざします。

●交流によるダイナミズムを生み出すモビリティの高い都

人口減少社会においては、人・モノ・情報の交流が地域活力を生み出す重要な要素であることから、モビリティ（移動のしやすさ）の高い都市を実現し、都市内、都市と都市、都市と農山漁村、さらに世界との交流を高めることで地域のダイナミズム（活力）を生み出す都市をめざします。

●高度で幅広い産業の集積が進む都市

地球規模で結びつく広域交流経済圏を視野に入れて、高度で幅広い産業と人材の集積をいかして、持続的なイノベーションにより、次代を担う産業の育成・集積を図り、国際競争力を維持するとともに、地域資源をいかしつつ産業振興が図られた都市をめざします。

●都市活動と自然環境が調和した安全で快適な都市

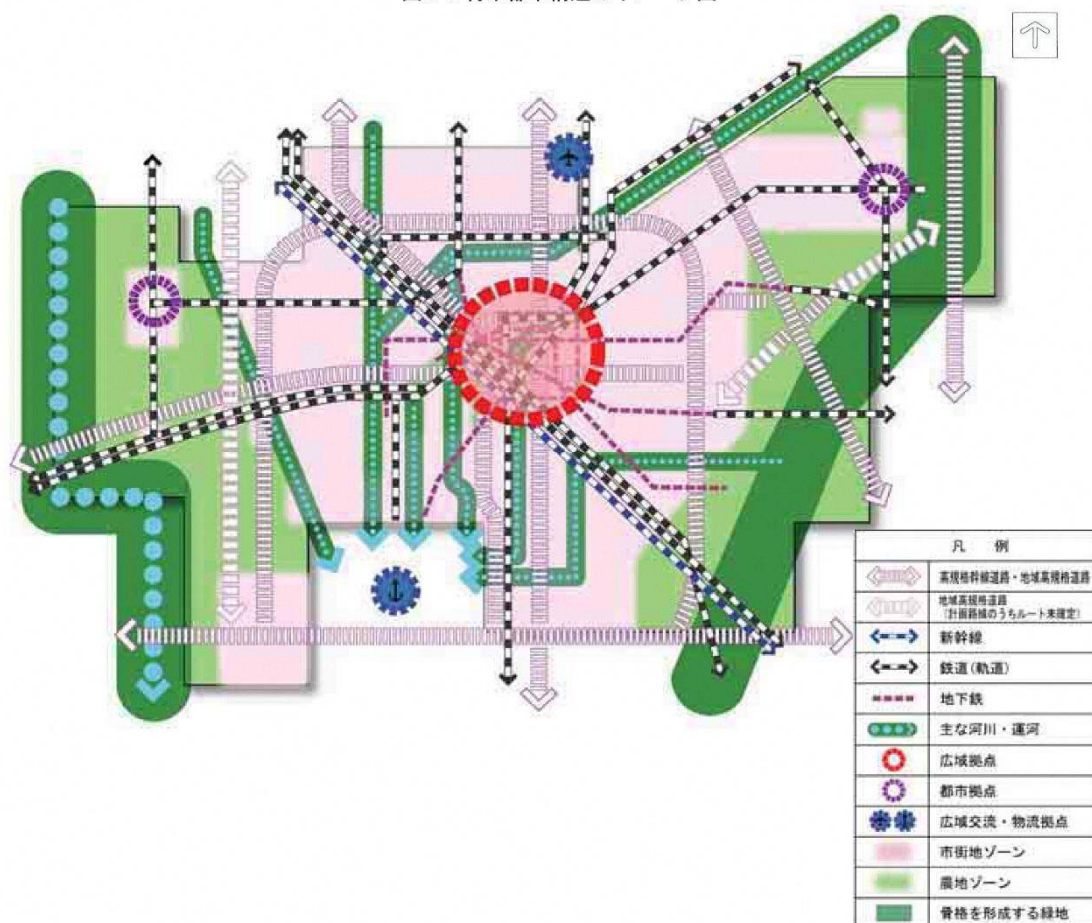
人の生活や産業活動といった都市活動は、それを支える安全で良好な環境があって成り立つものであることから、将来にわたり都市の持続性を確保するために、安全で、環境負荷が小さく、豊かな自然に支えられた快適な都市をめざします。

ウ) 都市づくりの基本理念

高次都市機能と学術・文化・研究開発機能を擁した 世界と交流する環伊勢湾地域の中核都市づくり

「暮らし・人への優しさ」、「都市活力の逞しさ」、「環境へのやさしさと災害に対するしなやかさ」をバランスよく備え、区域の特性や資源をいかして多元的に発展していく都市を実現するために、名古屋市の高次都市機能や区域内に集積する学術・文化・研究開発機能の強化を図ります。また、世界に開かれた名古屋港や中部国際空港に直結する広域交通系を基盤として、名古屋市近郊の自然や里山と密接な連携を図り、都市活動と自然環境が調和した安心・安全で持続可能な都市づくりを進めます。

図 3-3 将来都市構造のイメージ図



エ) 将来都市像

- ◇中心市街地や主要な鉄道（軌道）駅の周辺では、都心・まちなか居住が進んでいます。都市基盤施設の整った市街地に質の高い住宅地が形成され、多様な世代の人々が交流し、多文化が共生する都市が生まれています。
- ◇名古屋市に都心域には、中部圏を代表する高次都市機能が集積し、国際的な交流を生み出す広域拠点としての役割を果たしています。公共交通結節機能を有する津島駅および新瀬戸駅の周辺では、商業、文化、医療・福祉、教育・行政などの都市機能が集積した都市拠点が形成され、地域の生活を支えています。
- ◇広域交通体系により、国際的・広域的な人・モノ・情報の多様な交流が進み、都市機能を相互に補完して新たな活力を生み出しています。
- ◇陸海空の交通結節機能や広域交通体系による利便性をいかし、次世代を担う先端産業や高付加価値産業が数多く立地しています。
- ◇木曽川、庄内川、新川、堀川、境川、天白川、日光川などの河川や中川運河などが自然環境の基盤として機能しています。東部の丘陵地の緑が積極的に保全されるとともに、多様な主体による都市緑化が進められ、身近に自然とふれあえる快適な暮らしや交流が生まれています。
- ◇自然環境が保全されるとともに、地震、水害、土砂災害などの対策が講じられ、安全な暮らしが確保されています。
- ◇行政、住民、自治組織、企業、NPOなどの多様な主体が協働したまちづくりが進み、地域のニーズに対応した良質な地域社会が形成されています。

2) 名古屋市

① ＊名古屋市次期総合計画(中間案)(平成30年8月)

ア) まちづくりの方針

ーアジア競技大会、リニア時代、人口減少社会を
見据えた未来につながるまちづくりー

- ◇名古屋の強みを最大限に引き出す
- ◇名古屋大都市圏の成長をけん引する
- ◇リニア時代のリーダー都市へ
- ◇アジア競技大会を契機に、郷土愛にあふれ世界から選ばれる都市へ
- ◇安心・安全で住みやすく、みんなが活躍でき、みんなを応援する都市へ
- ◇世界に冠たる「NAGOYA」へ

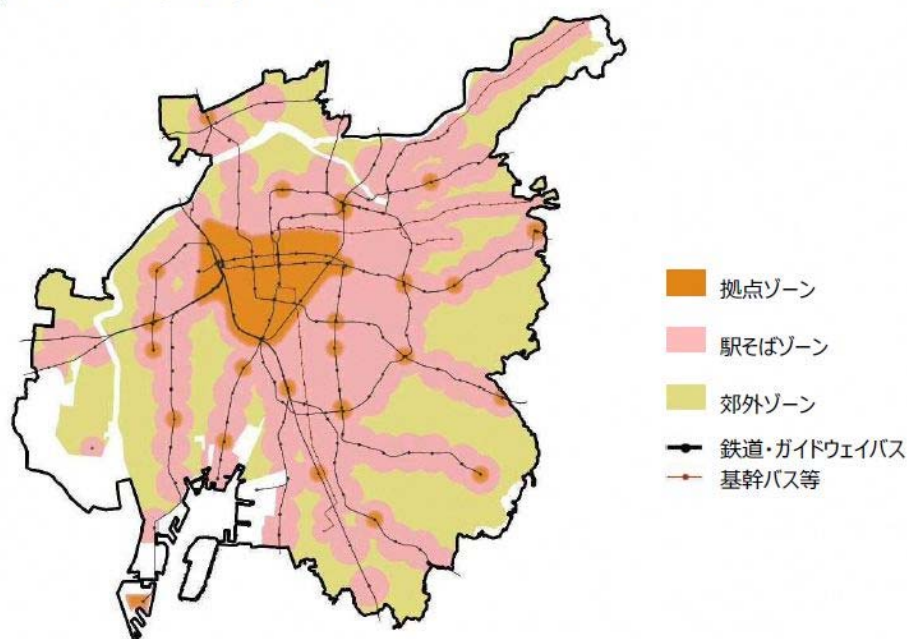
イ) めざす都市像

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 都市像 1 | 人権が尊重され、誰もがいきいきと暮らし、活躍できるまち |
| 都市像 2 | 安心して子育てができ、子どもや若者が豊かに育つまち |
| 都市像 3 | 人が支え合い、災害に強く安心・安全に暮らせるまち |
| 都市像 4 | 快適な都市環境と自然が調和したまち |
| 都市像 5 | 魅力と活力にあふれ、世界から人や企業をひきつける、開かれたまち |

ウ) 将来の都市構造

経済活動や交流・創造活動、市民生活に大きな影響を本市に与えるリニア中央新幹線の開業を、飛躍的な都市の成長のための絶好の機会と捉え、その効果を最大化するため、スーパー・メガリージョンの中心都市にふさわしい都市構造の実現をめざします。

◇ ゾーニングのイメージ



「拠点ゾーン」…市内外からアクセスしやすい拠点地域

～魅力があふれにぎわう交流拠点～

多様な交流を生み出す高次都市機能の集積をはかります。

「駅そばゾーン」…公共交通軸の周辺地域

～快適で利便性の高い居住環境～

公共交通網を軸とした、歩いて暮らせる快適なまちづくりを進めます。

「郊外ゾーン」…拠点・駅そば以外の市街化区域

～ゆとりと潤いがある居住環境～

空間的なゆとりと自然豊かな潤いのあるまちづくりを進めます。

その他、大規模な災害に備え、防災性の高い都市構造の構築を進めるとともに、環境負荷の少ない持続可能なまちづくりを進めます。

エ) 第 20 回アジア競技大会を契機としたまちづくりビジョン

●基本目標

基本目標 1	スポーツにより、市民が健康に暮らし、地域の活動が盛んになることで、活力ある都市の実現
基本目標 2	スポーツにより、都市のブランドが確立することで、にぎわいあふれ市民が誇りを持てる都市の実現
基本目標 3	大会で、アジアをはじめとした諸外国との交流や理解が深まることで、豊かな国際感覚を備えた開かれた都市の実現
基本目標 4	大会で活用した選手村や競技施設、先端技術などが、大会モデルとして未来に引き継がれることで、持続可能な都市の実現

●リニア時代のまちづくりビジョン

基本目標 1	国内外のヒト・モノ・カネ・情報が行き交う交流拠点都市の実現
基本目標 2	我が国の人流・物流を支える強くしなやかな都市の実現

世界に冠たる「NAGOYA」へ

「スーパー・メガリージョン」の形成

名古屋

大阪

名古屋港

中部国際空港

海外

リニア中央新幹線

東海道新幹線

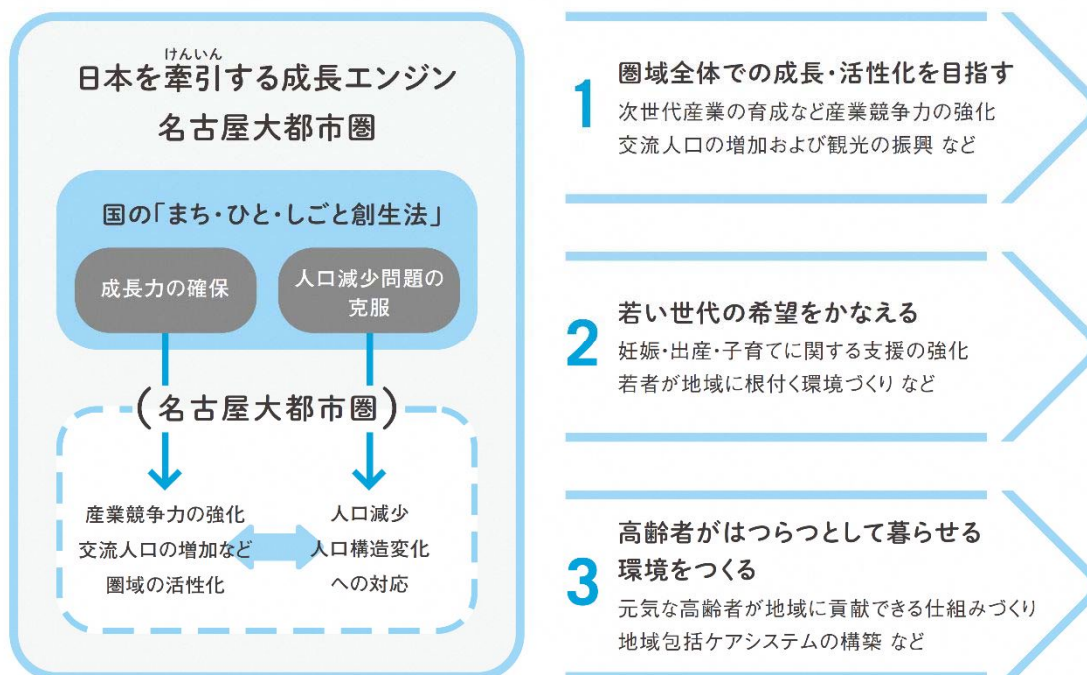
東京

リニア中央新幹線

写真：東海旅客鉄道提供

② 名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成27年～平成31年)

ア) 取り組みの方向性



イ) 基本目標と具体的な取り組み

基本目標①産業競争力を活かして成長を続けるまちへ

- ・次世代産業の振興
- ・地域産業の持続的成長による域内経済の活性化

基本目標②観光交流の推進によるにぎわいあふれるまちへ

- ・インバウンドの推進およびM I C Eの誘致による圏域の活性化

基本目標③若い世代の希望がかなうまちへ

- ・安心して子どもを生み育てることができる環境づくり
- ・若者が活躍できる環境づくり

基本目標④高齢者がはつらつとして暮らせるまちへ

- ・地域での支えあいの仕組みづくりと地域包括ケア

③ なごや集約連携型まちづくりプラン(平成30年3月)

ア) 計画の目標

魅力ある『名古屋ライフスタイル』を育む大都市の形成
～名古屋の強み「住みやすさ」を磨き伸ばすとともに将来に備え
「都市圏を牽引」する魅力と活力を高める～

イ) 基本方針

都心や拠点の魅力向上・創出

- ・ 交流の盛んな都心域、拠点の形成
- ・ 圏域を牽引する国際・産業交流機能の強化

様々な世代が活動しやすいまちづくり

- ・ 鉄道駅周辺で生活利便性や快適性の向上
- ・ 高齢者が安心して暮らすことができるまちづくり

成熟した市街地を活用したまちづくり

- ・ 利便性が高い鉄道駅周辺を中心とした既存住宅ストック等の有効活用や機能更新
- ・ 居住区の持続性を高めるための世代間バランスを考慮した新規来住の促進

ゆとりある郊外居住地の持続と新規開発の抑制

- ・ ゆとりとうるおいのある居住環境の持続
- ・ 緑を生かしたゆとりとうるおいのある開発内容への誘導や緑地の保全

災害リスクを意識したまちづくり

- ・ 災害に備えた都市基盤の整備や耐震化の促進
- ・ 災害リスクの内容と対策方法を認識した居住や土地利用の促進

ウ) まちづくりの方向性

『拠点市街地』

魅力があふれにぎわう交流拠点

- 多様な交流を生み出す高次都市機能の集積
- 良質な都市基盤を活かした質の高い居住環境



『駅そば市街地』

快適で利便性の高い居住環境

- 公共交通網を軸とした、歩いて暮らせる快適な居住環境
- 既存ストックの有効活用や更新による現状の人口水準の維持



『郊外市街地』

ゆとりとうるおいのある居住環境

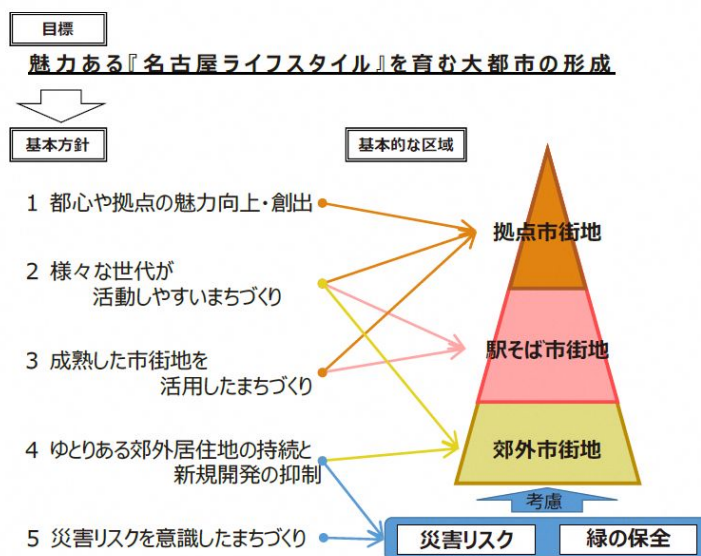
- 空間的な「ゆとり」と自然豊かな「うるおい」のある居住環境
- 人口減少が進む中でも良質で持続的な居住環境の維持



エ) 基本的な区域とまちづくりの方向性

基本方針に基づいて効果的に都市機能と居住の誘導をはかるために、集約連携型都市構造を構成する3つの基本的な区域を設定します。この基本的な区域ごとのまちづくりの方向性と区域設定の考え方を次に示します。

都市機能と居住の誘導にあたっては、区域ごとのまちづくりの方向性や災害リスク、緑の保全を考慮し、地域の特性を踏まえた上で取り組みをすすめます。



区 域	まちづくりの方向性
拠点市街地	■ 魅力があふれ賑わう交流拠点 ・都心域において、名古屋大都市圏の中心として多様な交流を生み出す高次都市機能が集積し、豊かな公共空間と高い回遊性がある魅力ある交流拠点の構築をめざす ・交通結節点等において、賑わいと生活利便性を高める施設が集積した市内各地域の中心となる拠点(地域拠点)の形成をめざす ・良質な都市基盤と魅力や利便性の集積を活かした質の高い居住環境の構築をめざす
駅そば市街地	■ 快適で利便性の高い居住環境 ・駅そば市街地の住民のみならず、周辺の郊外市街地の住民も利用する生活の利便性を高める施設が立地し、地下鉄をはじめとした公共交通網を軸とした、歩いて暮らせる快適な居住環境の構築をめざす ・既存のストックの有効活用や更新を促し、現状の人口水準が将来にわたって維持されるまちづくりをめざす
郊外市街地	■ 「ゆとり」と「うるおい」のある居住環境 ・空間的なゆとりと自然豊かなうるおいのある居住環境への誘導や、鉄道駅等へ接続するバス網の持続性・利便性の向上をはかり、人口減少がすすむ中でも良質で持続的な居住環境が維持されるまちづくりをめざす

16

④ 名古屋市都市計画マスタープラン(平成23年12月)

ア) めざすべき都市の姿

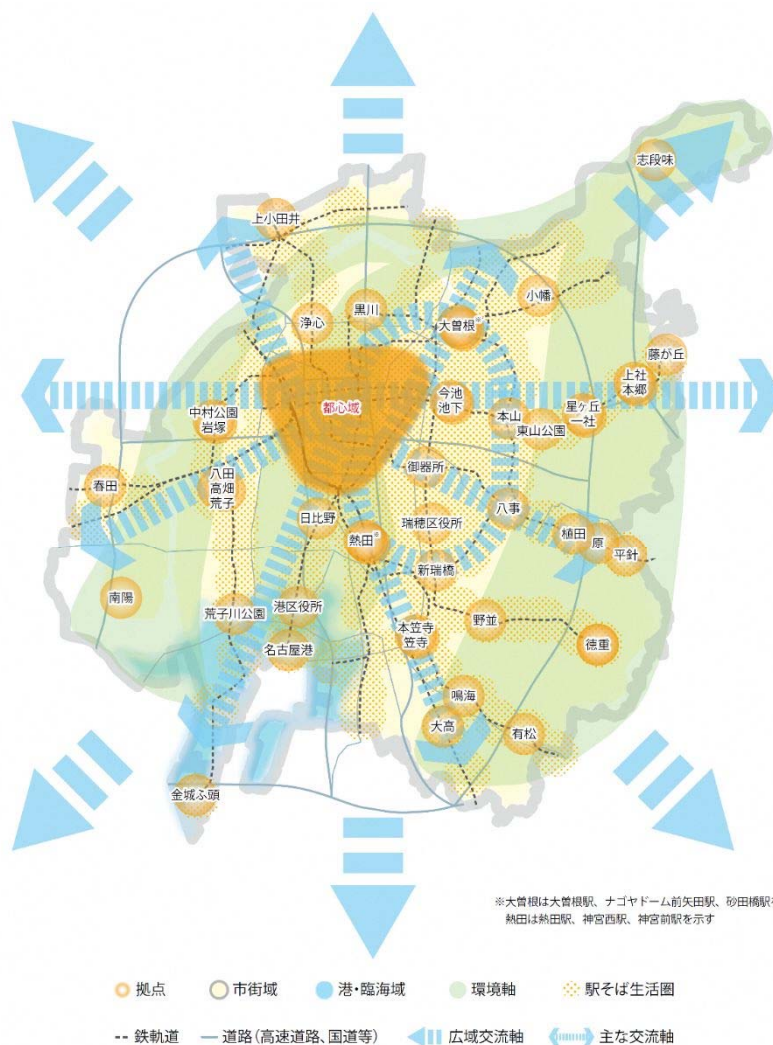
“ 人・まち・自然がつながる交流・創造都市”
 ～ 交流でつながる創造力でつづく、安全で心地よい都市へ～

イ) まちづくりの方針

- 暮らしやすさを実感できる 安心・安全・便利な生活環境づくり
- 名古屋大都市圏を牽引する 交流・創造的活動の場づくり
- 持続可能な社会を支える 低炭素・自然共生都市づくり

ウ) 目指すべき都市構造

集約型連携型都市構造の実現



エ) 戦略的まちづくりの展開

戦略2：拠点機能・拠点間連携の強化や緑・水との調和による都市の持続性の向上

●新たな拠点を中心とした生活圏の形成

土地の有効活用や緑・水辺などの地域資源を生かしたまちづくりと、公共交通の利便性の向上を一体的にすすめることで新たな拠点と生活圏の形成をはかり、市域で均衡のとれた集約連携型都市構造をめざします。

地域名：荒子川公園・港明

■荒子・高畑

- 荒子観音などの歴史的な資源と路地を生かした趣のあるまちづくりをめざすとともに、荒子駅と歴史資源間の回遊性向上をめざします。
- 荒子駅や高畑駅周辺において、商業施設、図書館、文化小劇場などの都市機能を生かした歩いて暮らせるまちづくりをめざします。
- あおなみ線沿線における低未利用地の土地利用転換などによる都市機能の充実に向けた検討をすすめます。



■荒子観音（観音寺）